
INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

TOKYO **IDWR**

東京都感染症情報センター

東京都感染症週報

2010年第24週
(6月14日～6月20日)

- * 2010年6月23日現在の情報により作成しています。
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>
- * 今週は月報告(2010年5月)の疾患及び感染症豆知識
「肺炎球菌ワクチン」も掲載しています。

平成22(2010)年6月24日発行

編集・発行

東京都健康安全研究センター疫学情報室

電話：03-3363-3213(直通)
FAX：03-5332-7365
e-mail：idsc@tokyo-eiken.go.jp

全数把握対象疾患 報告数 2010年24週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		21週	22週	23週	24週	年累計	24週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							1
	結核	98	74	67	61	1857	328	10789
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 *1							
	鳥インフルエンザ (H5N1)							
三類	コレラ					1		4
	細菌性赤痢	1	1	1		33	3	82
	腸管出血性大腸菌感染症	4	2	4	9	64	128	920
	腸チフス					2	1	15
	パラチフス					2	1	12
四類	E型肝炎					6	2	31
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎	2				32	6	242
	エキノкокクス症							5
	黄熱							
	オウム病							2
	オムスク出血熱							
	回帰熱							
	キャサナル森林病							
	Q熱							
	狂犬病							
	コクシジオイデス症							
	サル痘							
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							
	炭疽							
	つつが虫病	1		1		5	3	91
	デング熱	1		2		15	4	55
	東部ウマ脳炎							
	鳥インフルエンザ (H5N1を除く)							
	ニバウイルス感染症							
	日本紅斑熱					1	4	20
	日本脳炎							
	発しんチフス							
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症						1	2
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	ボツリヌス症							
	マラリア					9		24
野兎病								
ライム病					1	1	4	
リッサウイルス感染症								
リフトバレー熱								
類鼻疽					1		2	
レジオネラ症	1				14	7	235	
レプトスピラ症			1		2		3	
ロッキー山紅斑熱								

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		21週	22週	23週	24週	年累計	24週	年累計
五類 (全数届出)	アメーバ赤痢	1	9	6	2	79	7	364
	ウイルス性肝炎(A型・E型を除く)	1			2	22	3	89
	急性脳炎 *2					8	3	113
	クリプトスポリジウム症					1		5
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1		2		9	3	69
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症			2		9	1	60
	後天性免疫不全症候群	11	9	7	9	217	16	648
	ジアルジア症		1			8	3	38
	髄膜炎菌性髄膜炎							4
	先天性風しん症候群							
	梅毒	1	6	4	5	75	10	255
	破傷風					2	3	42
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症					8	1	45
	風しん	1	1			10	2	48
麻しん	3	2	5	3	42	3	249	
新型※	新型インフルエンザ *3	—	—	—	—	—	—	—
2010/6/23集計								

*1 病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

*2 ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

※ 新型インフルエンザ等感染症

*3 2009年4月28日に指定された。現時点では届出不要。

(全数把握対象疾患のコメント)

〈二類感染症〉

結核 61件 肺結核36件、その他の結核25件で、推定感染地は国内59件、ミャンマー1件、中国1件、年齢は10歳代3件、20歳代8件、30歳代7件、40歳代1件、50歳代8件、60歳代13件、70歳代9件、80歳代11件、90歳以上1件であった。

〈三類感染症〉

腸管出血性大腸菌感染症 9件 患者6件、無症状病原体保有者3件で、血清型・毒素型はO157(VT1)1件、O157(VT2)5件、O157(VT1VT2)2件、O157(毒素型不明)1件である。年齢は10歳未満2件(うち5歳未満1件)、10歳代1件、20歳代3件、30歳代1件、40歳代1件、50歳代1件で、5歳未満1件(O157毒素型不明)はHUSの発症があった。

〈四類感染症〉

四類感染症の届け出はなかった。

〈五類感染症〉

アメーバ赤痢 2件 腸管アメーバ症1件、腸管及び腸管外アメーバ症1件。推定感染地は国内1件、タイ1件、推定感染経路は飲食物による経口感染1件、その他(不明)1件であった。

ウイルス性肝炎 2件 どちらもB型で、推定感染地は国内、推定感染経路は性的接触(同性間1件、異性間1件)であった。

後天性免疫不全症候群 9件 無症候キャリア7件、AIDS2件。無症候キャリアの年齢は20歳代2件、30歳代2件、50歳代2件、60歳代1件、AIDS患者の年齢は40歳代1件、60歳代1件である。推定感染地は国内8件、インドネシア1件、推定感染経路は性的接触8件(同性間6件、異性間2件)、不明1件であった。

梅毒 5件 早期顕症梅毒Ⅱ期3件、無症候2件で、そのうち早期顕症梅毒Ⅱ期1件はHIVとの複合感染である。推定感染地は全て国内で、推定感染経路は性的接触(同性間)3件、その他(不明)2件であった。

麻しん 3件 麻しん(検査診断例)2件、修飾麻しん(検査診断例)1件で、年齢は10歳未満2件(うち5歳未満1件)、20歳代1件、麻しん含有ワクチン接種歴は無し1件、2回1件、不明1件であった。

定点把握対象疾患 報告数 2010年24週

定点種別	対象疾患	2010年					報告医療機関数	定点医療機関数
		21週	22週	23週	24週	(定点当たり)		
小児科	RSウイルス感染症	9	4	5	9	0.06	148	150
	咽頭結膜熱	48	54	59	57	0.39		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	312	335	351	274	1.85		
	感染性胃腸炎	1,035	1,092	1,077	910	6.15		
	水痘	326	266	302	275	1.86		
	手足口病	107	118	122	187	1.26		
	伝染性紅斑	54	114	98	91	0.61		
	突発性発しん	90	74	91	95	0.64		
	百日咳	20	30	36	34	0.23		
	ヘルパンギーナ	113	150	158	281	1.90		
	流行性耳下腺炎	120	144	139	174	1.18		
	不明発しん症 (注1)	11	18	29	7	0.05		
MCLS (川崎病) (注1)	1	2	2	1	0.01			
インフルエンザ	インフルエンザ (注2)	18	24	13	15	0.05	285	290
眼科	急性出血性結膜炎	1	2	4	1	0.03	39	39
	流行性角結膜炎	16	20	13	20	0.51		
基幹	細菌性髄膜炎 (注3)	0	0	0	0	0.00	24	24
	無菌性髄膜炎	0	0	2	0	0.00		
	マイコプラズマ肺炎	8	8	9	3	0.13		
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	0	0	0	1	0.04		

2010/6/23集計

(注1) 不明発しん症、MCLS (川崎病) は東京都が独自に指定する疾患である。

(注2) 鳥インフルエンザ感染症を除く。

(注3) 髄膜炎菌性髄膜炎を除く。

(定点把握対象疾患のコメント)

- ・手足口病の定点当たり報告数は増加した。過去5年平均の同時期と比較して多い。
- ・伝染性紅斑の定点当たり報告数は微減した。しかし過去5年平均の同時期と比較して多い。
- ・百日咳の定点当たり報告数は微減した。しかし過去5年平均の同時期と比較して多く注意が必要である。
- ・ヘルパンギーナの定点当たり報告数は増加した。過去5年平均の同時期と比較して多い。
- ・流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は増加した。過去5年平均と比較して高いレベルで推移している。

(定点医療機関からのコメント)

杉並保健所管内定点医療機関

- ・百日咳:凝集素価測定にて成人2名診断。

定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2010年24週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
～5か月		1		6	4	1		5	2	2
～11か月	3	6		71	19	11		29		15
1歳	2	17	5	105	39	43	3	52		89
2歳	1	8	14	69	52	35	4	5	1	56
3歳		11	26	100	51	30	8			52
4歳		3	36	95	44	29	11	2		34
5歳		4	35	87	23	16	17		1	17
6歳		2	36	61	13	5	14		2	6
7歳		1	33	55	12	4	13		2	3
8歳		2	25	45	7	3	10		2	1
9歳			18	36	6	4	3		1	2
10～14歳		1	34	76	4	4	5		4	3
15～19歳			2	24					3	
20～29歳	3	1	10	80	1	2	3	2	16	1
30～39歳										
40～49歳										
50～59歳										
60～69歳										
70～79歳										
80歳以上										
合計	9	57	274	910	275	187	91	95	34	281
先週比	4	-2	-77	-167	-27	65	-7	4	-2	123

注：小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性耳下腺炎	不明発しん症	MCLS(川崎病)	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎
～5か月						
～11か月	1	2		2		
1歳	9					
2歳	17	1				
3歳	21			3	1	
4歳	21		1	1		1
5歳	24					
6歳	19			1		
7歳	17					
8歳	18	1				
9歳	9					1
10～14歳	11	1		2		
15～19歳	2	1		3		
20～29歳	5	1				1
30～39歳				1		7
40～49歳				1		6
50～59歳				1		
60～69歳						3
70～79歳						1
80歳以上						
合計	174	7	1	15	1	20
先週比	35	-22	-1	2	-3	7

注：小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

全数把握対象疾患 (風しん、麻しん)報告数

【年齢階級別】 2010年24週

	風しん	麻しん
0歳		1
1歳		
2歳		
3歳		
4歳		
5歳		
6歳		1
7歳		
8歳		
9歳		
10～14歳		
15～19歳		
20～29歳		1
30～39歳		
40～49歳		
50～59歳		
60～69歳		
70～79歳		
80歳以上		
合計	0	3

定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2010年24週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
千代田					8	2		1		1
中央区				10	2	15				8
みなの	4	8	6	39	7	7	2	5		6
新宿区	1	1	5	24	15	6	3	1		17
文京			7	8	1		1	2		2
台東			8	27	3	1	1	5		13
墨田区	1		1	9		3	1	4		4
江東区			3	56	10	13		1	1	14
品川区		2	10	46	3	3		3		15
目黒区		1		16	1	4		1		1
大田区	2	12	15	90	11	12		7	4	29
世田谷		6	18	46	23	8	2	5		10
渋谷区		1	7	21	9		1	7		7
中野区		1	12	41	5	18	4	4		7
杉並			16	46	12	3	4	1	5	2
池袋		2	1	13	2	2				2
北区			3	8	15	4	4	1		4
荒川区		3	2	15	4	1		1		12
板橋区			2	18	4	2	5	2	3	
練馬区		2	9	20	6	6		2	1	4
足立		2	28	21	4	8	18	4		15
葛飾区			8	23	13	4	6	5		8
江戸川		2	18	31	14	11	10	3	15	32
八王子市		3	37	67	9	6	8	2	2	5
西多摩		5	4	24	3		1	2		3
南多摩	1		3	32	20	4	2	2		1
町田			24	62	34	17	4	11	1	21
多摩立川		1	2	18	7	2	2	1	1	2
多摩府中		3	12	36	18	10	8	4	1	18
多摩小平		2	10	43	12	14	4	8		18
島しょ			3			1				
東京都合計	9	57	274	910	275	187	91	95	34	281

全数把握対象疾患
(風しん、麻しん)報告数

【保健所別】 2010年24週

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	不明 発しん症	MCLS (川崎病)	インフルエ ンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田	2	1	1			
中央区	2					1
みなと	9	1				
新宿区	1					1
文京	1					1
台東						
墨田区	3	1				1
江東区	2			2		
品川区	7					
目黒区	1					2
大田区	3					
世田谷	19	1		1		
渋谷区	2					
中野区	2					
杉並	4					3
池袋						
北区	4					1
荒川区						
板橋区	2	1				
練馬区	4					
足立					1	1
葛飾区	10					
江戸川	7					1
八王子市	7	1				5
西多摩	8					
南多摩	10					
町田	20			5		
多摩立川	2	1				
多摩府中	18					1
多摩小平	22			7		2
島しょ	2					

東京都合計	174	7	1	15	1	20
-------	-----	---	---	----	---	----

	風しん	麻しん
千代田		
中央区		
みなと		
新宿区		
文京		
台東		1
墨田区		
江東区		
品川区		
目黒区		
大田区		
世田谷		
渋谷区		
中野区		
杉並		
池袋		
北区		
荒川区		
板橋区		
練馬区		
足立		
葛飾区		
江戸川		
八王子市		2
西多摩		
南多摩		
町田		
多摩立川		
多摩府中		
多摩小平		
島しょ		

東京都合計	0	3
-------	---	---

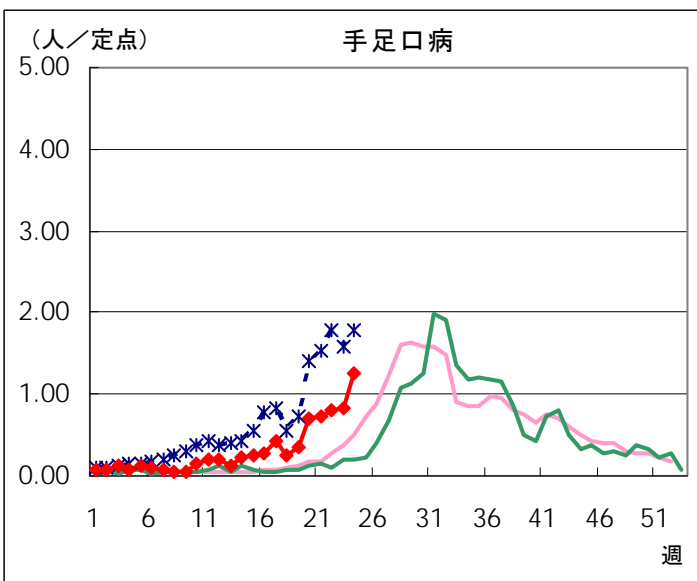
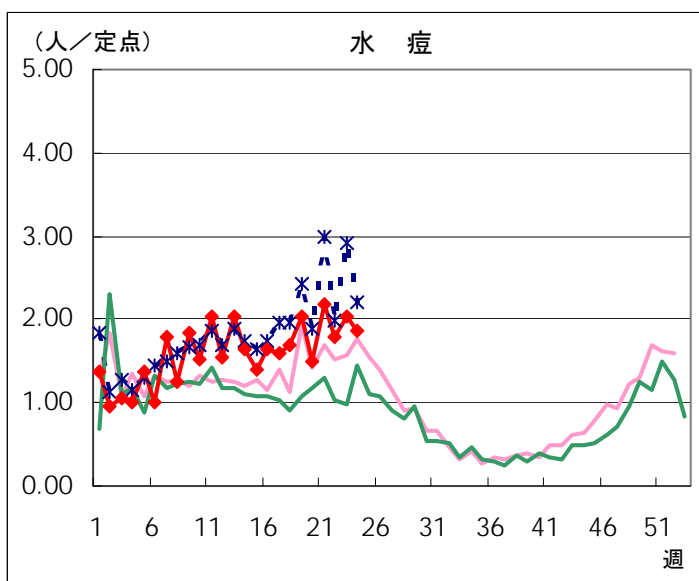
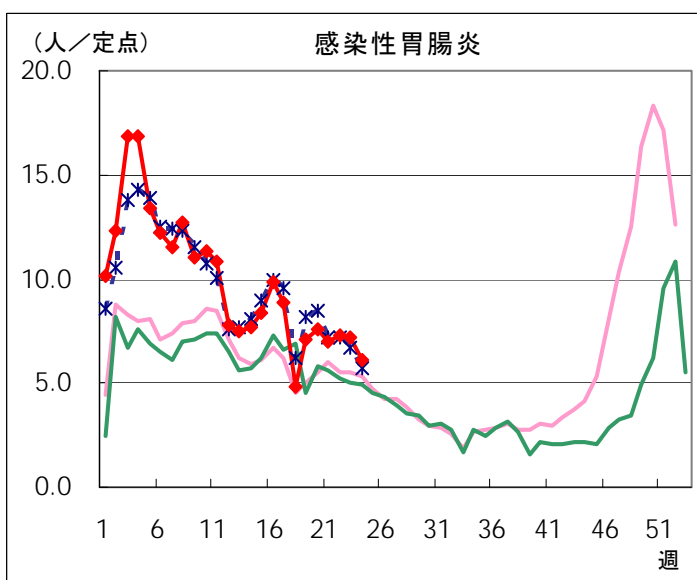
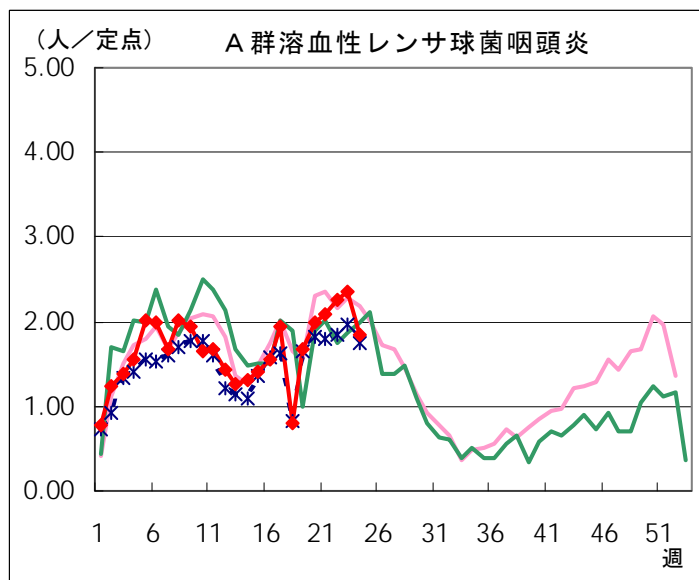
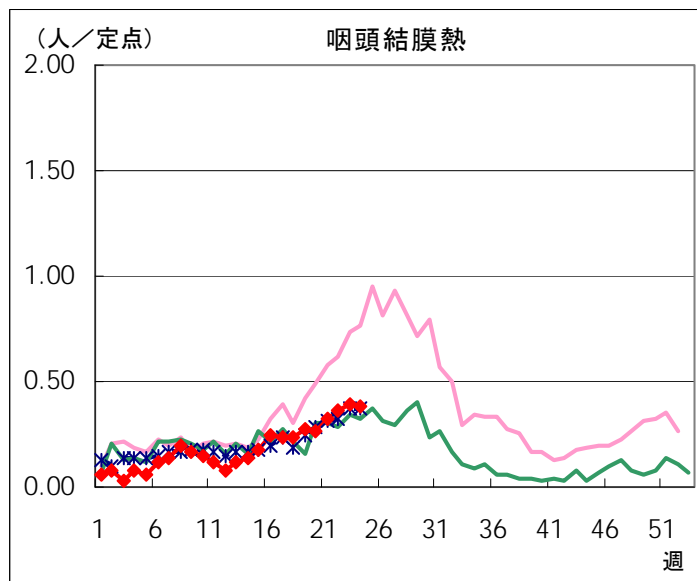
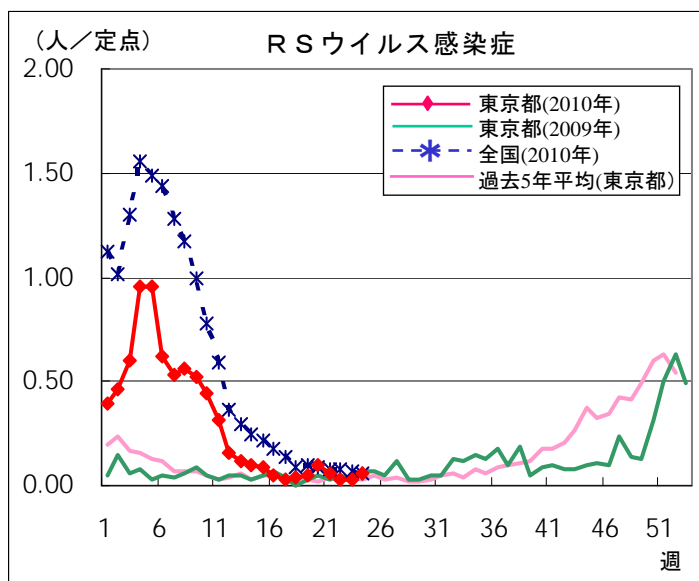
定点把握対象疾患 報告数【保健所別・定点当たり】 2010年24週

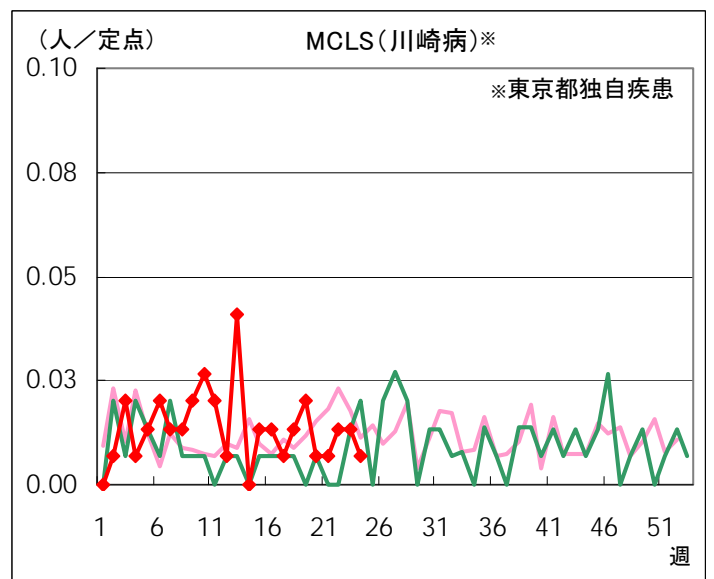
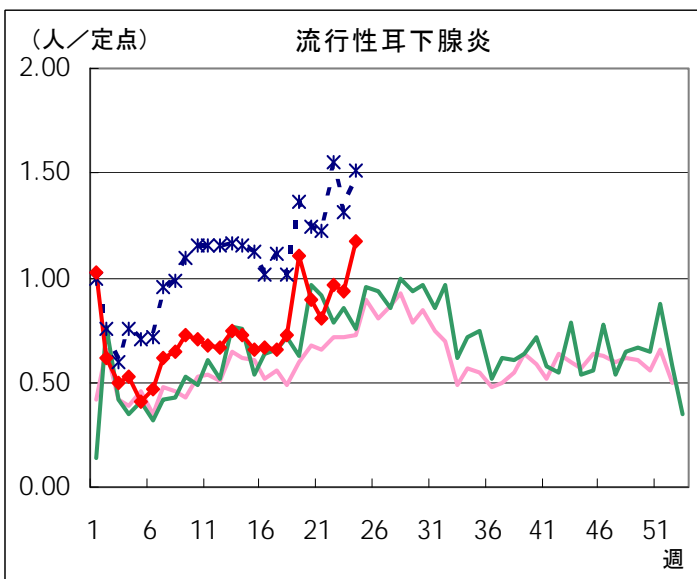
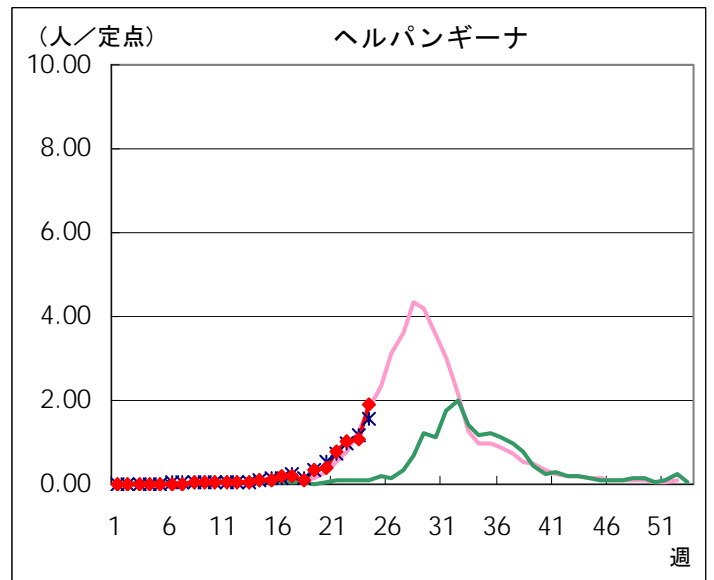
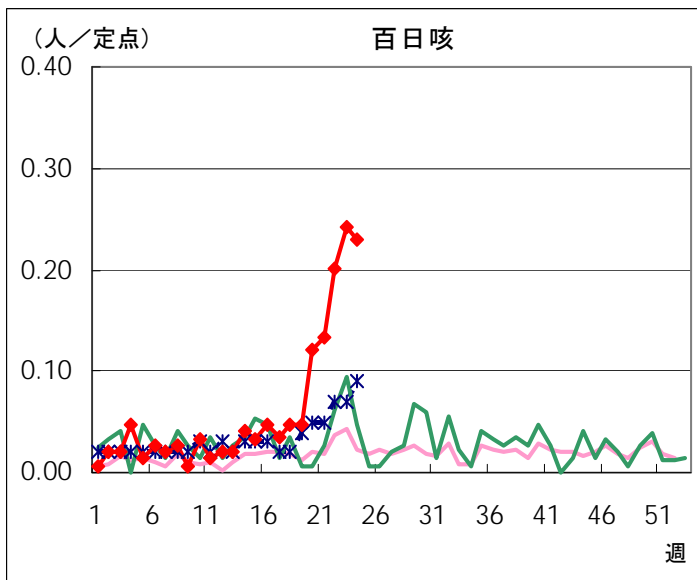
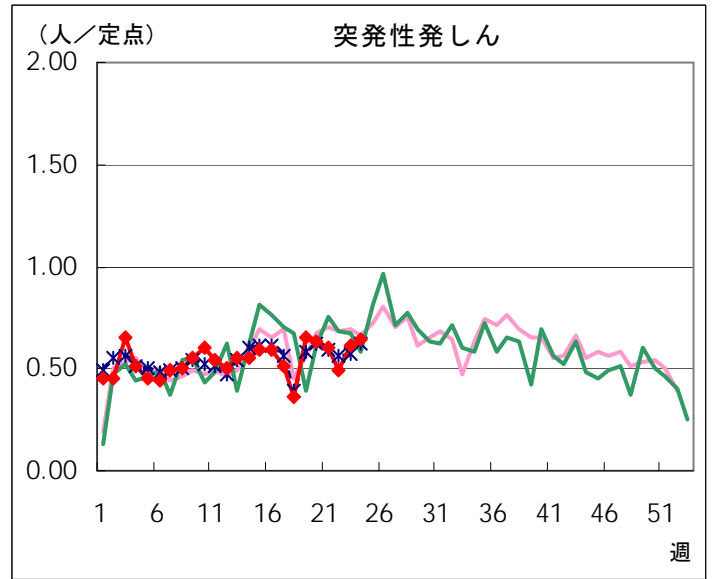
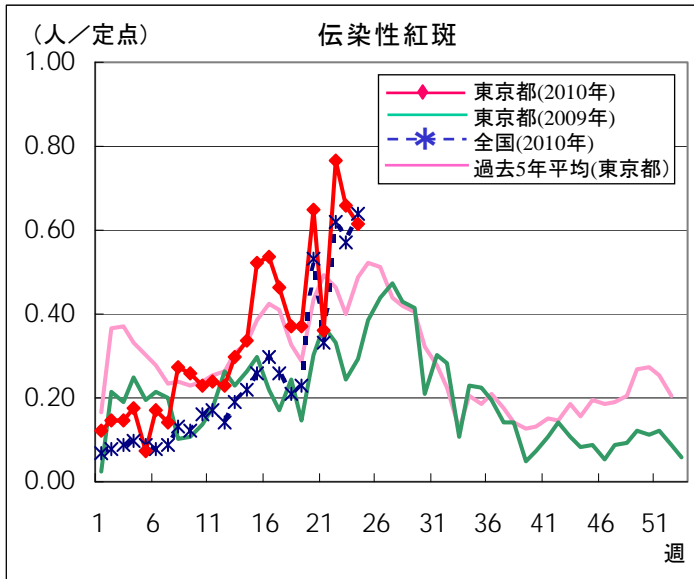
定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
千代田					2.67	0.67		0.33		0.33
中央区				3.33	0.67	5.00				2.67
みなと	0.67	1.33	1.00	6.50	1.17	1.17	0.33	0.83		1.00
新宿区	0.17	0.17	0.83	4.00	2.50	1.00	0.50	0.17		2.83
文京			2.33	2.67	0.33		0.33	0.67		0.67
台東			2.67	9.00	1.00	0.33	0.33	1.67		4.33
墨田区	0.33		0.33	3.00		1.00	0.33	1.33		1.33
江東区			0.75	14.00	2.50	3.25		0.25	0.25	3.50
品川区		0.33	1.67	7.67	0.50	0.50		0.50		2.50
目黒区		0.33		5.33	0.33	1.33		0.33		0.33
大田区	0.22	1.33	1.67	10.00	1.22	1.33		0.78	0.44	3.22
世田谷		0.75	2.25	5.75	2.88	1.00	0.25	0.63		1.25
渋谷区		0.25	1.75	5.25	2.25		0.25	1.75		1.75
中野区		0.17	2.00	6.83	0.83	3.00	0.67	0.67		1.17
杉並			2.67	7.67	2.00	0.50	0.67	0.17	0.83	0.33
池袋		0.40	0.20	2.60	0.40	0.40				0.40
北区			0.75	2.00	3.75	1.00	1.00	0.25		1.00
荒川区		1.50	1.00	7.50	2.00	0.50		0.50		6.00
板橋区			0.33	3.00	0.67	0.33	0.83	0.33	0.50	
練馬区		0.40	1.80	4.00	1.20	1.20		0.40	0.20	0.80
足立		0.40	5.60	4.20	0.80	1.60	3.60	0.80		3.00
葛飾区			2.00	5.75	3.25	1.00	1.50	1.25		2.00
江戸川		0.40	3.60	6.20	2.80	2.20	2.00	0.60	3.00	6.40
八王子市		0.75	9.25	16.75	2.25	1.50	2.00	0.50	0.50	1.25
西多摩		1.00	0.80	4.80	0.60		0.20	0.40		0.60
南多摩	0.25		0.75	8.00	5.00	1.00	0.50	0.50		0.25
町田			6.00	15.50	8.50	4.25	1.00	2.75	0.25	5.25
多摩立川		0.17	0.33	3.00	1.17	0.33	0.33	0.17	0.17	0.33
多摩府中		0.33	1.33	4.00	2.00	1.11	0.89	0.44	0.11	2.00
多摩小平		0.33	1.67	7.17	2.00	2.33	0.67	1.33		3.00
島しょ			3.00			1.00				
東京都	0.06	0.39	1.85	6.15	1.86	1.26	0.61	0.64	0.23	1.90

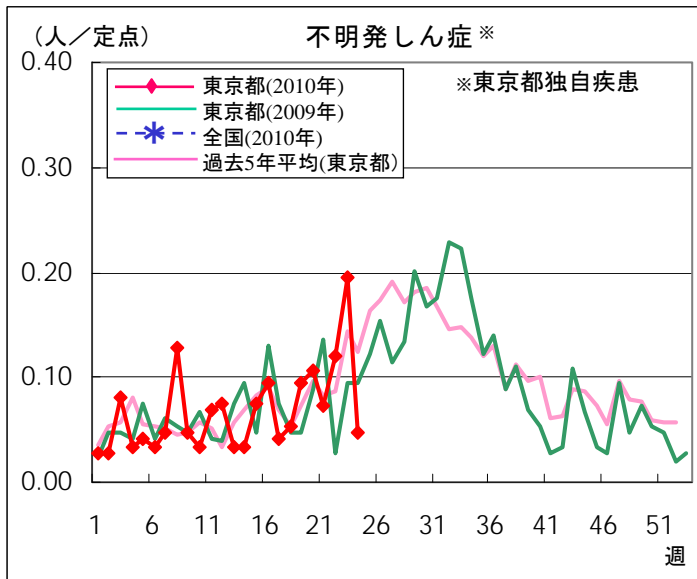
定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	不明 発しん症	MCLS (川崎病)	インフルエ ンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田	0.67	0.33	0.33			
中央区	0.67					1.00
みなと	1.50	0.17				
新宿区	0.17					0.50
文京	0.33					1.00
台東						
墨田区	1.00	0.33				1.00
江東区	0.50			0.22		
品川区	1.17					
目黒区	0.33					2.00
大田区	0.33					
世田谷	2.38	0.13		0.06		
渋谷区	0.50					
中野区	0.33					
杉並	0.67					3.00
池袋						
北区	1.00					1.00
荒川区						
板橋区	0.33	0.17				
練馬区	0.80					
足立					0.50	0.50
葛飾区	2.50					
江戸川	1.40					0.50
八王子市	1.75	0.25				2.50
西多摩	1.60					
南多摩	2.50					
町田	5.00			0.56		
多摩立川	0.33	0.17				
多摩府中	2.00					0.33
多摩小平	3.67			0.50		1.00
島しょ	2.00					
東京都	1.18	0.05	0.01	0.05	0.03	0.51

定点把握対象疾患 報告数【週別発生状況】 2010年24週現在

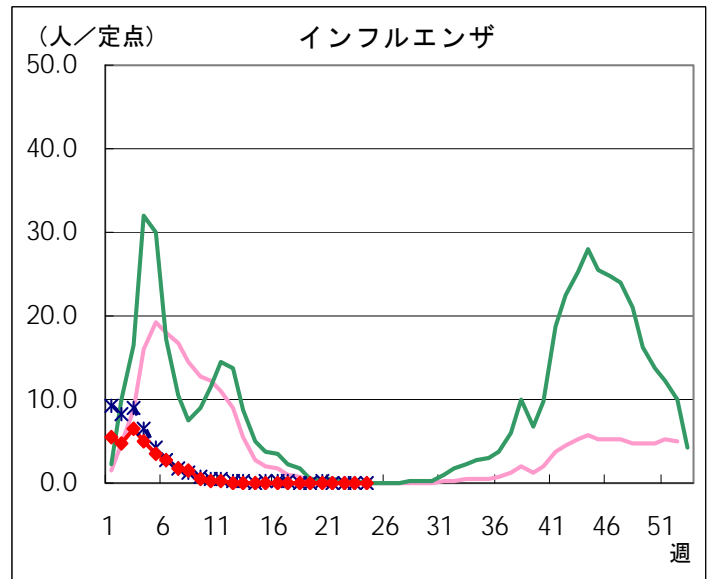
◆ 小児科定点



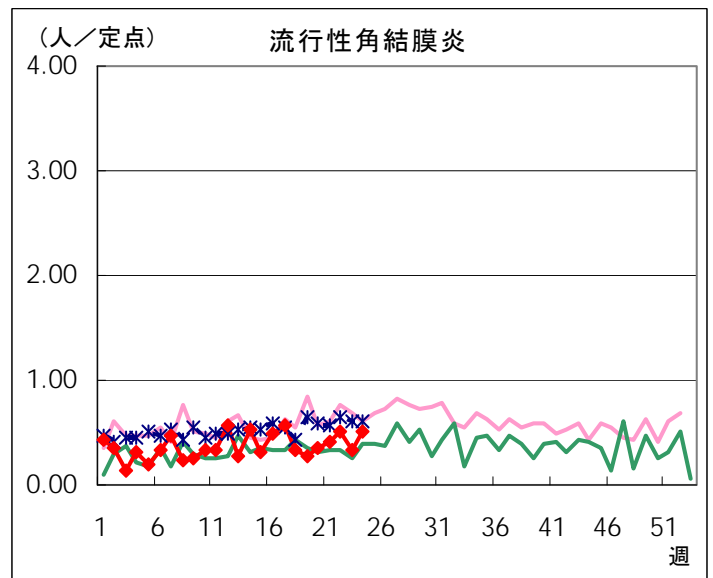
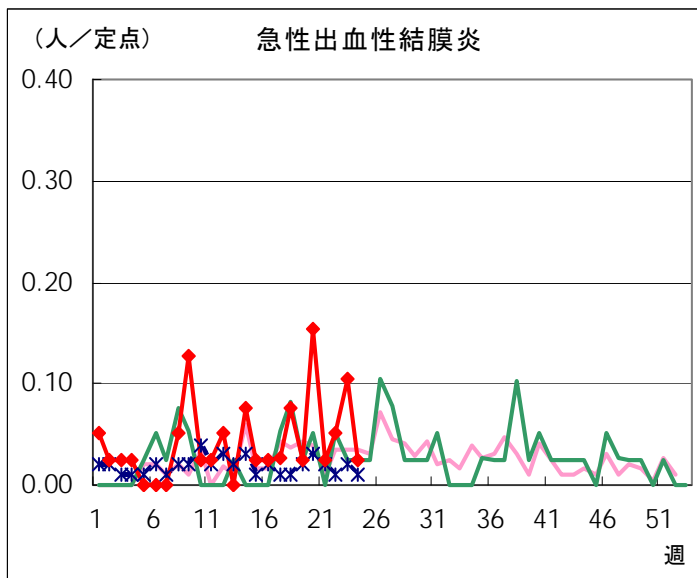




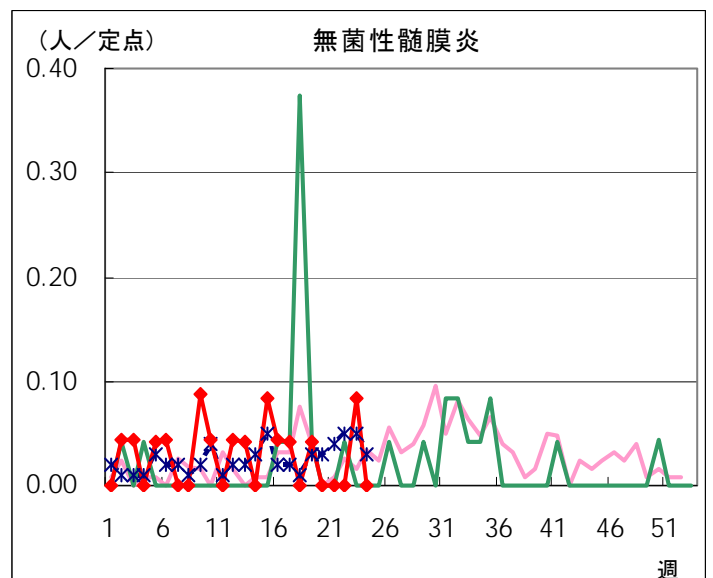
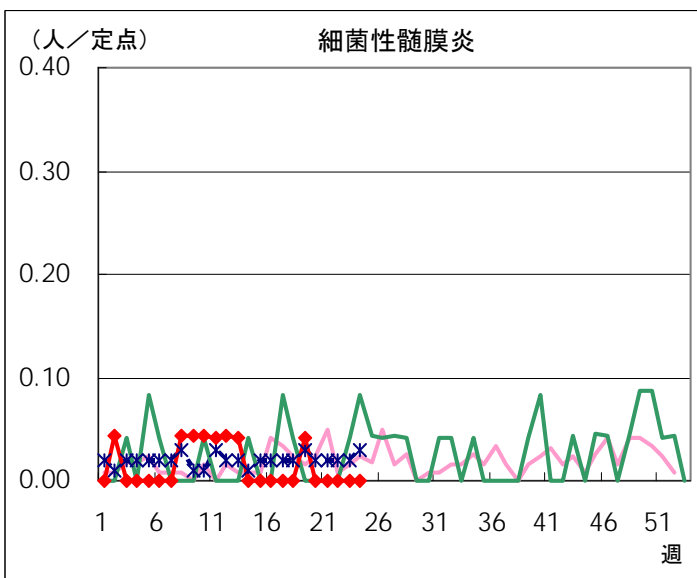
◆ インフルエンザ定点

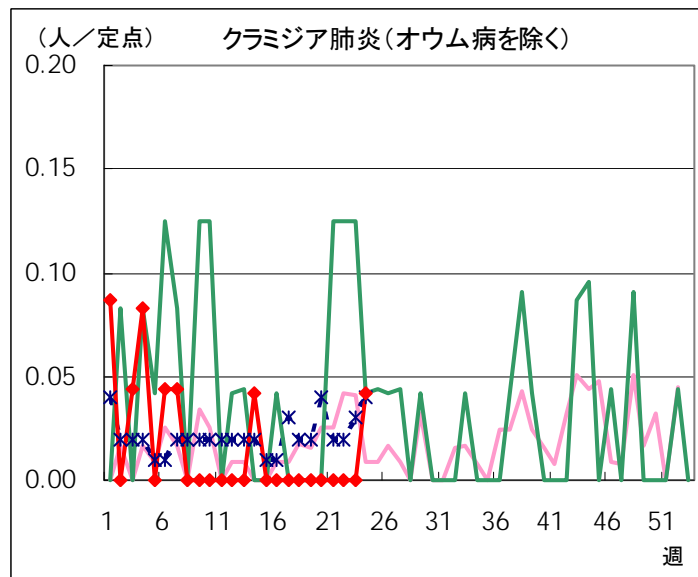
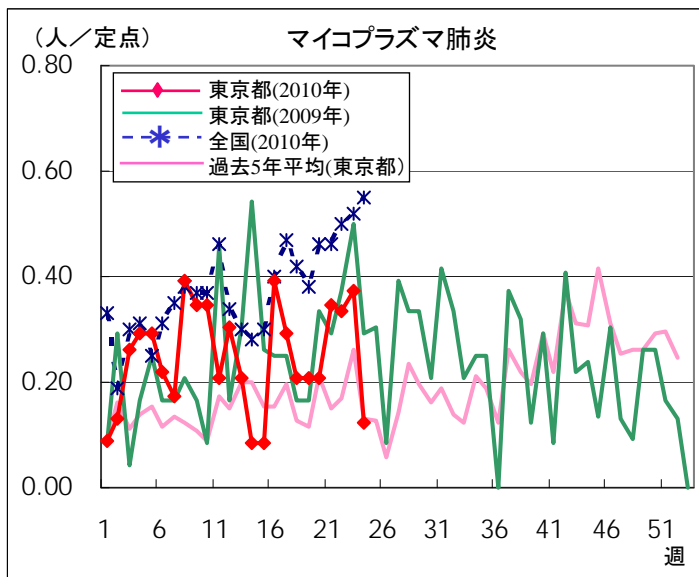


◆ 眼科定点

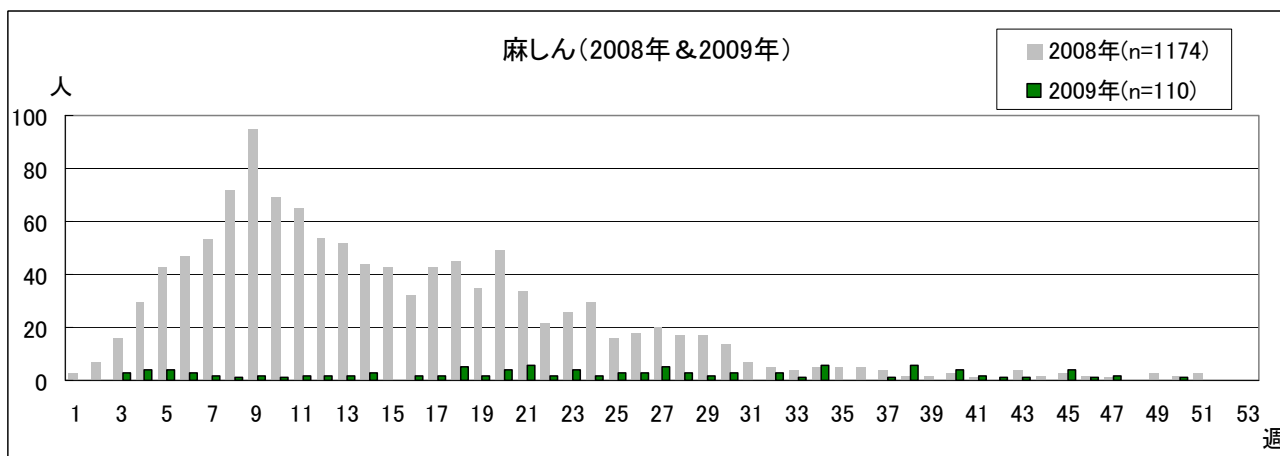
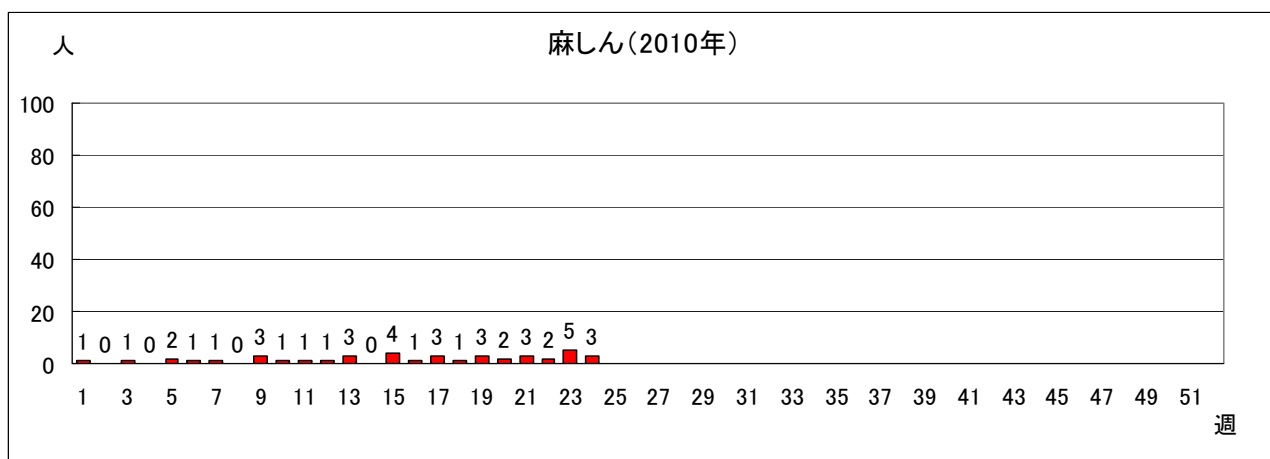


◆ 基幹定点





全数把握対象疾患 報告数【週別保健所受理状況】 2010年24週現在



定点(病原体)医療機関から搬入された検体の検査情報

◇病原体検出状況

*原則として検体採取日の順に掲載しています。

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
3/29	けいれん重積	3	咽頭拭い液	ライノウイルス	遺伝子
5/30	百日咳	7	咽頭拭い液	百日咳菌 黄色ブドウ球菌 : コアグララーゼIV型, 感受性は①参照	遺伝子 菌型 薬剤感受性
6/3	流行性耳下腺炎	1	咽頭拭い液	アデノウイルス、サイトメガロウイルス	遺伝子
6/3	百日咳	6	咽頭拭い液	百日咳菌	
6/3	百日咳	10	鼻汁	百日咳菌	
6/4	肺炎	65	糞便	EBウイルス	
			咽頭拭い液		
6/4	感染性胃腸炎	1	糞便	サポウイルス	
6/4	不明発しん症	1	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス6型、7型	
6/4	気管支炎	11M	咽頭拭い液	ライノウイルス	
6/4	気管支炎	3	咽頭拭い液	パラインフルエンザウイルス1型	
6/4	肺炎	2	咽頭拭い液	パラインフルエンザウイルス3型	
6/4	百日咳	10	咽頭拭い液	百日咳菌	
6/6	伝染性紅斑	6	咽頭拭い液	アデノウイルス	
6/7	デング熱	7	血液	デングウイルス抗体	
6/7	急性咽頭炎	1	咽頭拭い液	エンテロウイルス	遺伝子
6/7	上気道炎	3M	咽頭拭い液	ライノウイルス	
6/7	喘息性気管支炎	4M	咽頭拭い液	アデノウイルス、ライノウイルス	
6/7	不明熱・急性咽頭炎	記載なし	咽頭拭い液	ライノウイルス パラインフルエンザウイルス3型	
6/8	けいれん群発	6	髄液	エンテロウイルス	
6/9	ウイルス感染症	1	咽頭拭い液	ライノウイルス	
6/9	伝染性紅斑	4	咽頭拭い液	ライノウイルス	
6/9	不明発しん症	記載なし	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス6型	
6/9	じんましん	8M	咽頭拭い液	サイトメガロウイルス	

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
6/9	伝染性紅斑	4	咽頭拭い液	ライノウイルス、パルボウイルス	遺伝子
6/10	不明発しん症	4	咽頭拭い液	エンテロウイルス	

薬剤感受性検査結果：黄色ブドウ球菌

参照番号	CEZ	CTX	IPM	EM	CAM	GM	VCM	MINO	OFLX	ABPC	MPIPC
	セファゾリン	セフトキシム	イミペネム	エリスロマイシン	クラリスロマイシン	ゲンタマイシン	バンコマイシン	ミノサイクリン	オフロキサシン	アンピシリン	オキサシリン
①	s	s	s	R	R	s	s	s	s	R	s

s:感性(感受性), I:中等度, R:耐性

◇遺伝子検査法によるインフルエンザウイルスの亜型

検出件数	インフルエンザウイルス			
	AH1型	AH3型	B型	AH1pdm(新型)*
23週	0	0	0	0
今シーズン累計**	1	1	9	732

*：新型インフルエンザウイルス(ブタ由来インフルエンザウイルスA/H1N1)。

**：2009-2010シーズンの開始は第36週(8月31日～9月6日)。

病原体検査情報【検出病原体別・週別】

検出病原体		2010年							
		16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週
ウイルス	アデノウイルス	3		4	12	5	10	8	3
	ライノウイルス	5		6	5	5	7	5	8
	ポリオウイルス								
	コクサッキーウイルスA群								
	コクサッキーウイルスB群								
	エコーウイルス								
	エンテロウイルス71								
	その他のエンテロウイルス	2		3	7	4	8	6	3
	単純ヘルペスウイルス								
	水痘・帯状疱疹ウイルス								
	ヘルペスウイルス6/7	4		3	5	3	1	1	3
	EBウイルス	2		1	1	1	1	1	2
	サイトメガロウイルス				1		1		2
	ムンプスウイルス	1		3	2	1	2	4	
	麻疹ウイルス								
	風疹ウイルス								
	パルボウイルスB19								1
	RSウイルス	2				1		1	
	ノロウイルス			1					
	ロタウイルス							1	
	インフルエンザウイルスAH1								
	インフルエンザウイルスAH3				1				
	インフルエンザウイルスB								
新型インフルエンザウイルスAH1pdm	1	3				1	1		
デングウイルス(抗体を含む)						1		1	
その他のウイルス	6		7	2	7	6	3	4	
細菌	カンピロバクター								
	サルモネラ								
	腸管出血性大腸菌								
	その他の腸管系病原菌								
	溶血性レンサ球菌				2		9		
	その他の細菌		3		1		3	3	5
その他の病原体									

病原体検査情報【検出病原体別・臨床診断名別】

2010年16週～2010年23週

臨床診断名 検出病原体	インフルエンザ	上気道炎	下気道炎	感染性胃腸炎	無菌性髄膜炎	咽頭結膜熱	A群溶連菌咽頭炎	流行性角結膜炎	ヘルパンギーナ	手足口病	伝染性紅斑	不明発しん症	流行性耳下腺炎	水痘	麻疹	風しん	その他	
搬入検体数	20	33	82	26	15	6	1	6	1	8	3	23	19		2		123	
ウイルス	アデノウイルス		7	14	6		3	2		1	1	1	4				6	
	ライノウイルス		7	17	3	1					2	3					8	
	ポリオウイルス																	
	コクサッキーウイルスA群																	
	コクサッキーウイルスB群																	
	エコーウイルス																	
	エンテロウイルス71																	
	その他のエンテロウイルス		3	5	7				1	6		5						6
	単純ヘルペスウイルス																	
	水痘・帯状疱疹ウイルス																	
	ヘルペスウイルス6/7									1		10						9
	EBウイルス			2										3				4
	サイトメガロウイルス												1	2				1
	ムンプスウイルス					1								12				
	麻疹ウイルス																	
	風しんウイルス																	
	パルボウイルスB19											1						
	RSウイルス			4														
	ノロウイルス				1													
	ロタウイルス				1													
インフルエンザウイルスAH1																		
インフルエンザウイルスAH3	1																	
インフルエンザウイルスB																		
新型インフルエンザウイルスAH1pdm	6																	
デングウイルス(抗体を含む)																	2	
その他のウイルス		3	25	4		1											2	
細菌	カンピロバクター																	
	サルモネラ																	
	腸管出血性大腸菌																	
	その他の腸管系病原菌																	
	溶血性レンサ球菌		7					1										3
その他の細菌		4	9														2	
その他の病原体																		

月報告 定点把握対象疾患 報告数 2010年5月

定点種別	対象疾患	性別	報告数	定点当たり 報告数	報告医療 機関数	定点医療 機関数
性 感 染 症	性器クラミジア感染症	男	111	2.02	55	55
		女	98	1.78		
	性器ヘルペスウイルス 感染症	男	59	1.07		
		女	29	0.53		
	尖圭コンジローマ	男	63	1.15		
		女	15	0.27		
	淋菌感染症	男	90	1.64		
		女	15	0.27		
	膺トリコモナス症*	男	0	0.00		
		女	11	0.20		
梅毒様疾患	男	7	0.13			
	女	0	0.00			
基 幹	メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	男	64	2.67	24	24
		女	45	1.88		
	ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	男	40	1.67		
		女	48	2.00		
	薬剤耐性 緑膿菌感染症	男	1	0.04		
		女	0	0.00		

2010/6/23

* 性感染症定点から報告される『膺トリコモナス症』とは、原虫の一種である膺トリコモナス(Trichomonas vaginalis)による疾患を指し、女性の膺、男性の尿道、前立腺などの生殖器や泌尿器に寄生して引き起こされる感染症である。ヒトに寄生するトリコモナスには、他に口腔トリコモナスや腸トリコモナスがある。

月報告 定点把握対象疾患(性感染症) 報告数【年齢階級別】2010年5月

男						
年齢階級	性器クラミジア 感染症	性器ヘルペス ウイルス感染症	尖圭コンジローマ	淋菌感染症	膣トリコモナス症	梅毒様疾患
0歳						
1～4歳						
5～9歳						
10～14歳						
15～19歳	5		1	3		
20～24歳	20	2	4	14		
25～29歳	19	6	9	21		
30～34歳	19	13	16	14		1
35～39歳	15	12	8	11		3
40～44歳	13	8	9	13		2
45～49歳	7	7	9	5		1
50～54歳	4	3	2	3		
55～59歳	6	3	2	4		
60～64歳	3	3	1	1		
65～69歳		1	1			
70歳～		1	1	1		
合計	111	59	63	90		7
先月数	123	60	45	67	1	4
増減数	-12	-1	18	23	-1	3

女						
年齢階級	性器クラミジア 感染症	性器ヘルペス ウイルス感染症	尖圭コンジローマ	淋菌感染症	膣トリコモナス症	梅毒様疾患
0歳						
1～4歳						
5～9歳						
10～14歳						
15～19歳	7	1		2		
20～24歳	28	7	4	3	4	
25～29歳	30	7	7	5	6	
30～34歳	21	4	3			
35～39歳	9	1	1	4	1	
40～44歳	1	6				
45～49歳	1	1				
50～54歳						
55～59歳				1		
60～64歳	1	1				
65～69歳						
70歳～		1				
合計	98	29	15	15	11	
先月数	82	44	17	10	12	
増減数	16	-15	-2	5	-1	

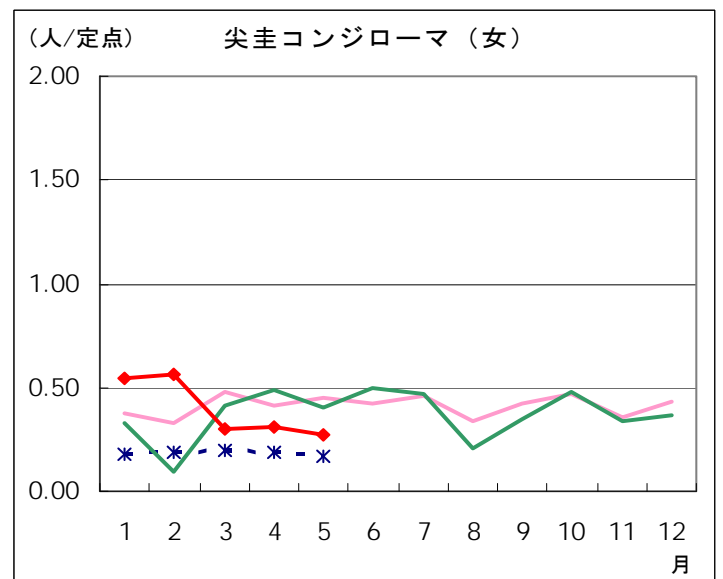
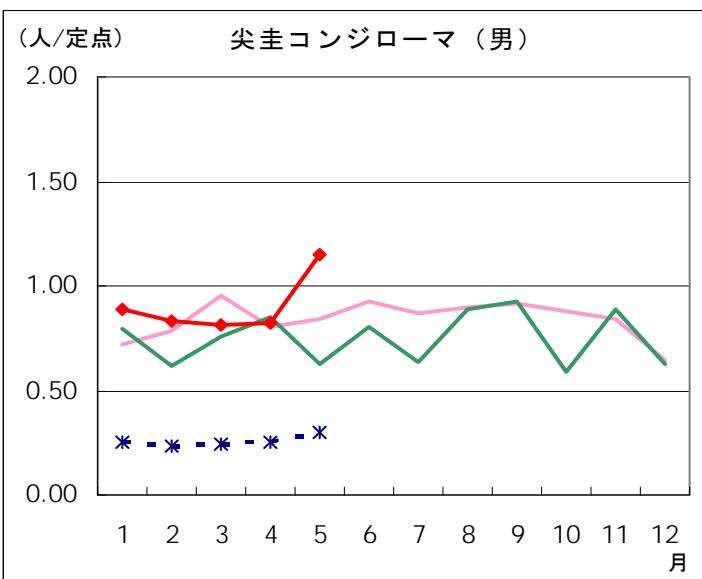
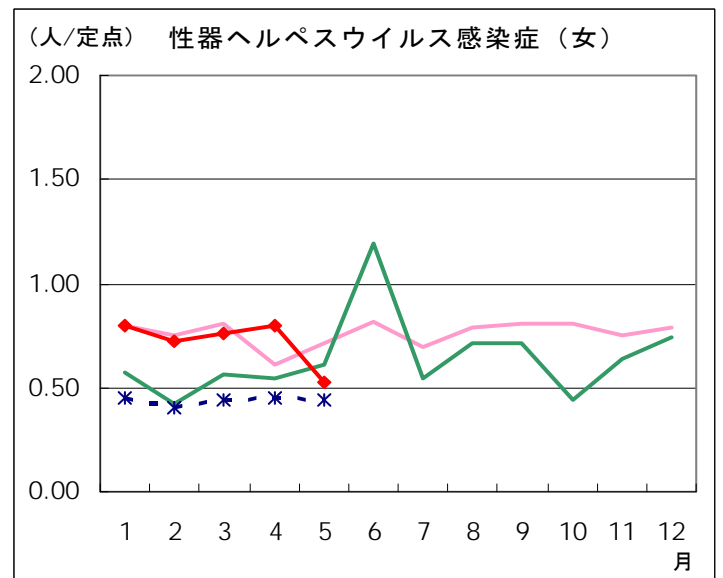
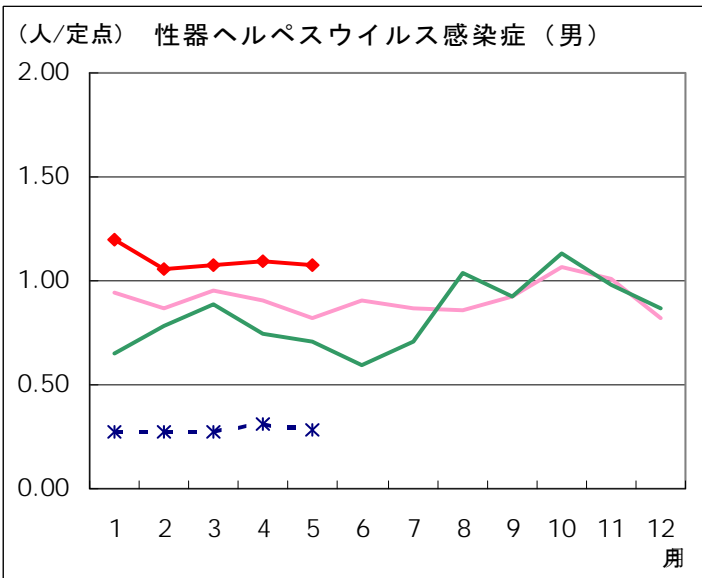
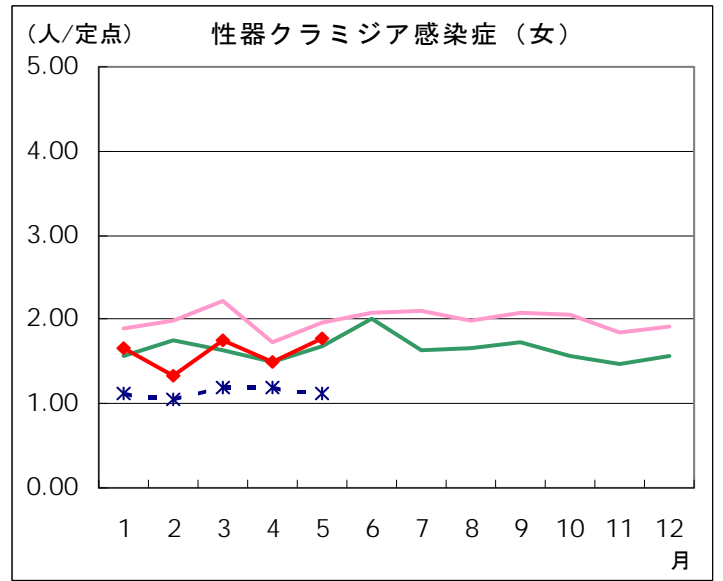
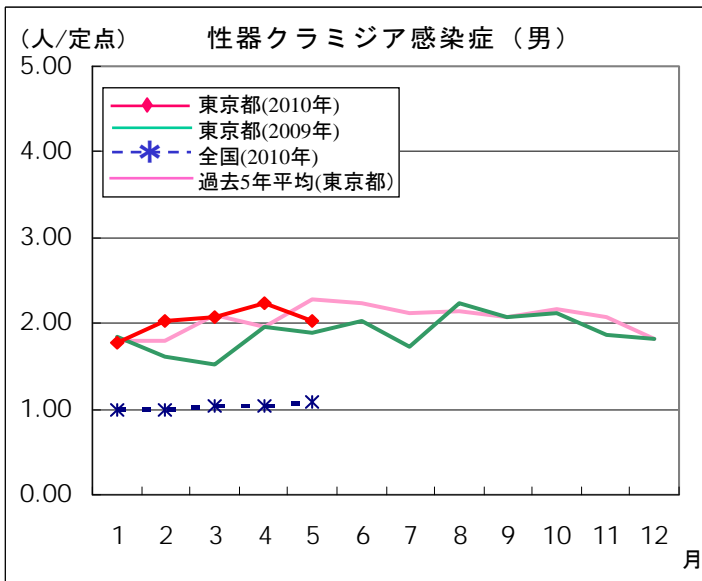
月報告 定点把握対象疾患(性感染症) 報告数【保健所別】 2010年5月

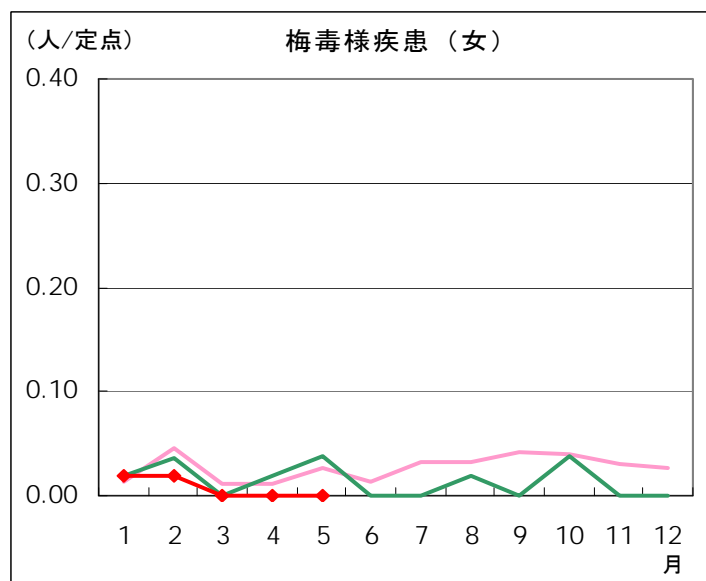
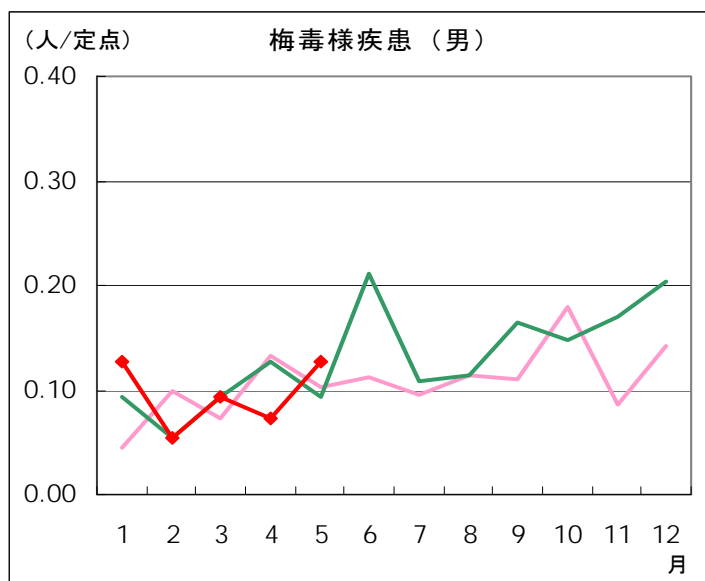
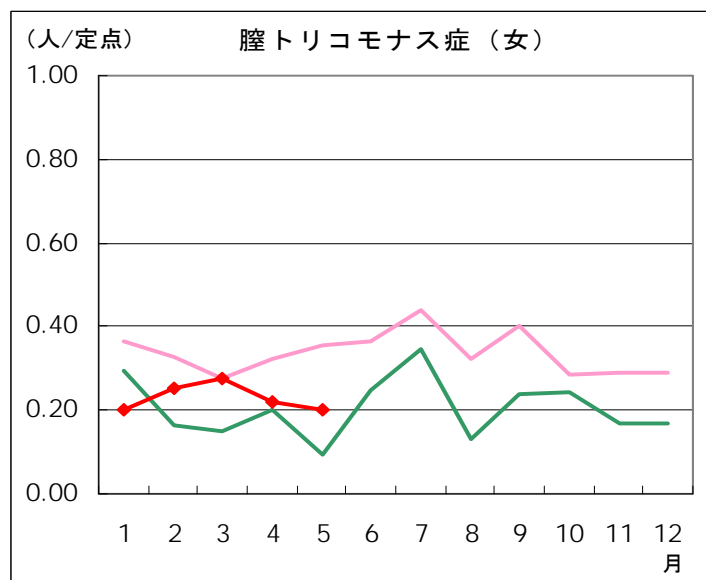
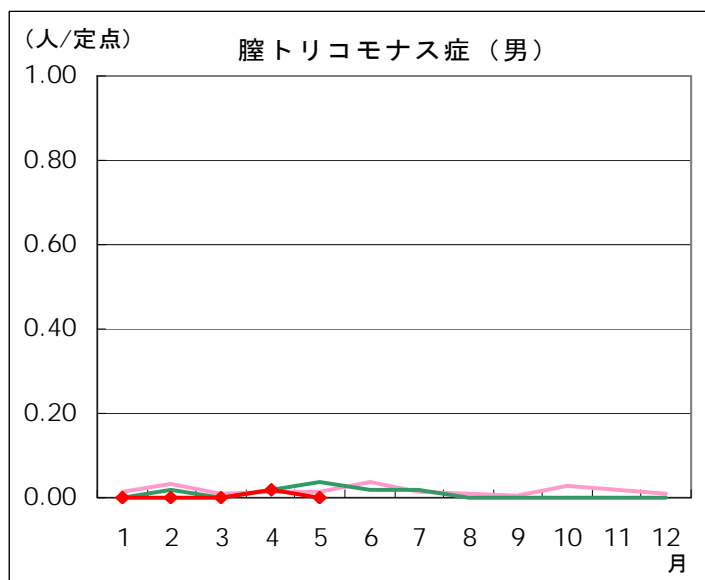
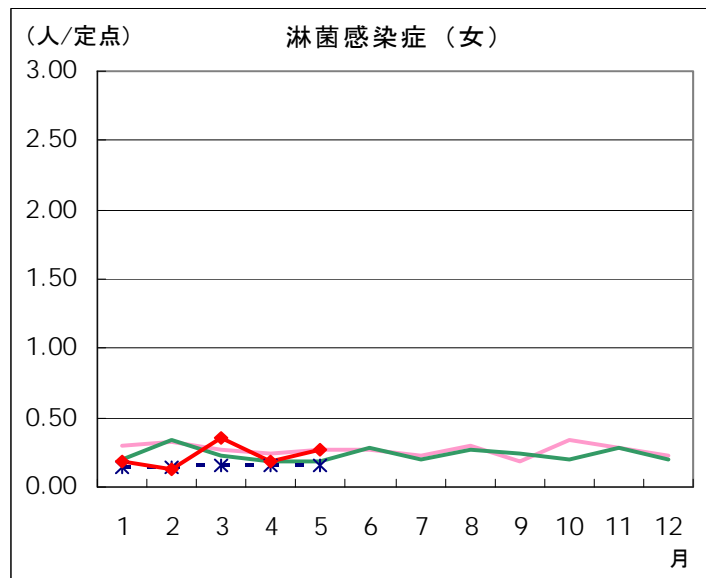
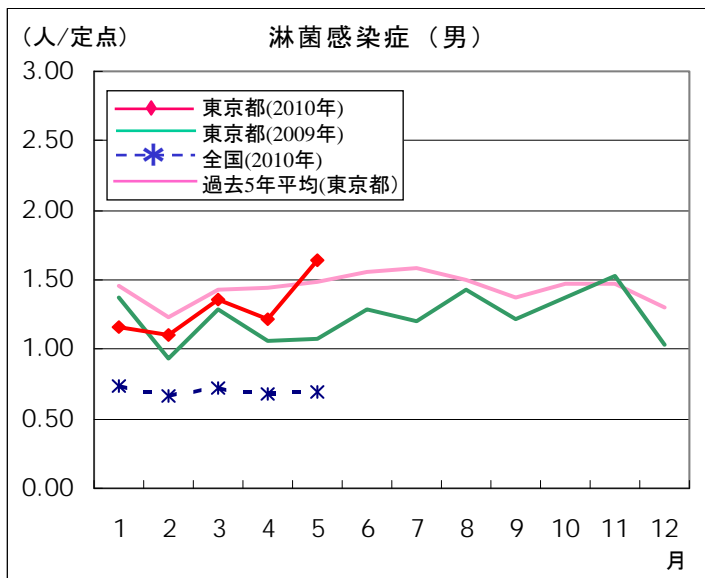
男							
保健所名	定点数	性器クラミジア 感染症	性器ヘルペス ウイルス感染症	尖圭 コンジローマ	淋菌感染症	膣トリコモナス症	梅毒様疾患
千代田	2	15	4	5	7		
中央区	3	7			3		
みなと	2	8	24	8	9		
新宿区	7	28	16	28	35		3
文京	1	2		1	5		
台東	2						
墨田区	2	1					
江東区	2	7	5	7	6		
品川区	1		1		2		
大田区	2	1					
渋谷区	5	6	4	2	2		
中野区	2	5		2	4		
杉並	2	5					
池袋	3	10	4	6	8		3
北区	1	2		3			
荒川区	1						
板橋区	2	1			4		
足立	2	5			4		
江戸川	2	5	1	1			1
八王子市	4						
町田	1						
多摩立川	2	2					
多摩府中	3	1			1		
多摩小平	1						
合 計	55	111	59	63	90		7
定点当たり		2.02	1.07	1.15	1.64		0.13

女							
保健所名	定点数	性器クラミジア 感染症	性器ヘルペス ウイルス感染症	尖圭 コンジローマ	淋菌感染症	膣トリコモナス症	梅毒様疾患
千代田	2	1	1				
中央区	3	4		1			
みなと	2	7	5		1		
新宿区	7	13	3	2	7		
文京	1						
台東	2	4	2				
墨田区	2	2					
江東区	2			1			
品川区	1						
大田区	2	4					
渋谷区	5	3	9	5			
中野区	2			1	2	1	
杉並	2	3		1			
池袋	3	10	3	2	1	1	
北区	1						
荒川区	1	2					
板橋区	2	7			1		
足立	2	1					
江戸川	2	7		1		3	
八王子市	4	9	2	1	1	3	
町田	1	3				2	
多摩立川	2	17	2		2	1	
多摩府中	3	1					
多摩小平	1		2				
合 計	55	98	29	15	15	11	
定点当たり		1.78	0.53	0.27	0.27	0.20	

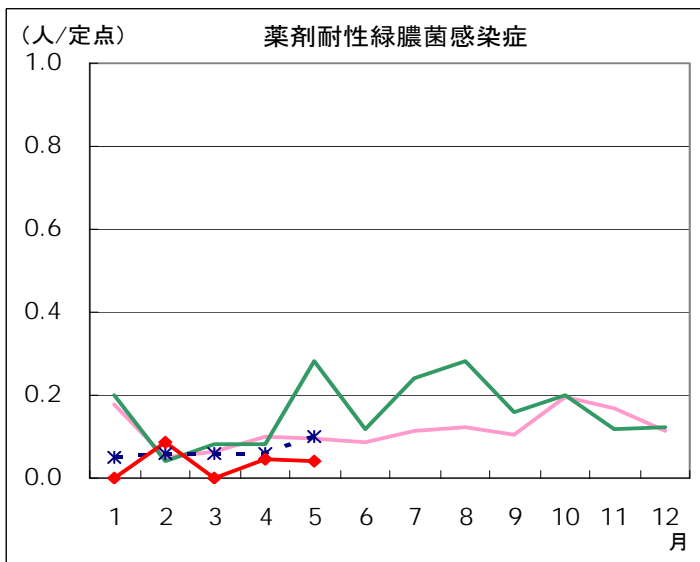
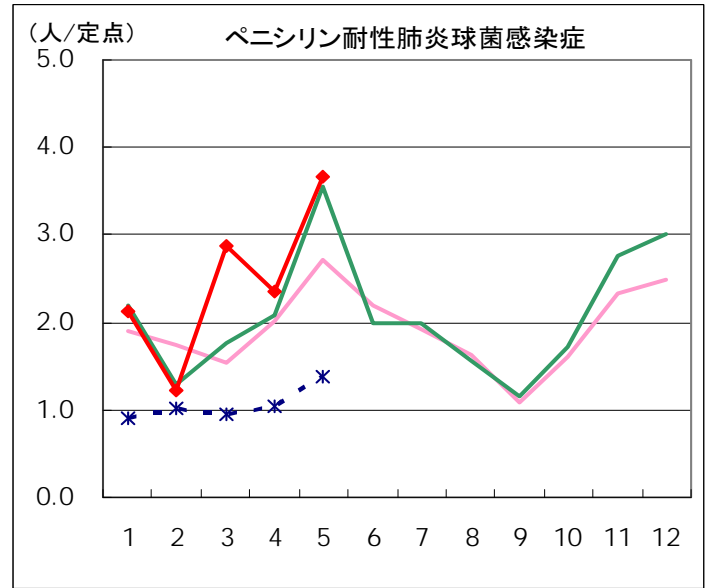
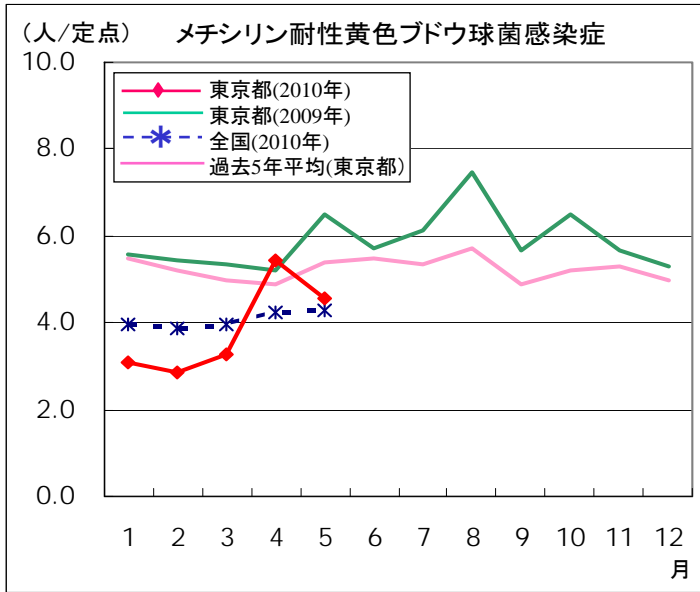
月報告 定点把握対象疾患報告数【月別発生状況】 2010年5月現在

◆ 性感染症定点





◆ 基幹定点



月報告 病原体検査情報

◇定点(病原体)医療機関からの搬入検体

*原則として検体受付日の順に掲載しています。

受付月日	臨床診断名	年齢	性別	検査試料	検出病原体	検査法
5/11	陰茎ヘルペス	56	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	ヒト単純ヘルペスウイルス2型	遺伝子
5/12	尿道炎	47	男	尿	淋菌	
5/17	陰茎コンジローマ	34	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	ヒトパピローマウイルス6型	
5/17	陰茎ヘルペス	44	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	ヒト単純ヘルペスウイルス2型	
5/17	淋菌性尿道炎	31	男	陰部尿道頸部擦過物/ 分泌物	淋菌	
5/17	尿道炎	29	男	尿	クラミジア	
5/18	尖圭コンジローマ	48	男	コンジローマ部位擦過物	ヒトパピローマウイルス6型	
5/18	陰茎ヘルペス疑い	49	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	ヒト単純ヘルペスウイルス1型	
5/24	淋菌性尿道炎	31	男	陰部尿道頸部擦過物/ 分泌物	淋菌	遺伝子 分離同定
5/25	淋菌性尿道炎	25	男	陰部尿道頸部擦過物/ 分泌物	淋菌	遺伝子
5/26	尖圭コンジローマ	19	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	ヒトパピローマウイルス6型	
5/26	尿道炎	37	男	陰部尿道頸部擦過物/ 分泌物	クラミジア	
5/27	陰茎コンジローマ	60	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	ヒトパピローマウイルス6型	
5/27	陰茎コンジローマ	47	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	ヒトパピローマウイルス6型	
5/27	尿道炎	40	男	尿	クラミジア	
5/27	尿道炎	48	男	尿	クラミジア	
5/27	尿道炎	32	男	尿	淋菌	
5/31	尖圭コンジローマ	記載なし	男	コンジローマ部位擦過物	ヒトパピローマウイルス6型	遺伝子

<感染症豆知識>

肺炎球菌ワクチン

肺炎球菌は小児の急性中耳炎、肺炎、髄膜炎や菌血症、高齢者の肺炎等の侵襲性肺炎球菌感染症（IPD）として最も頻度が高い。莢膜のある強毒素の菌（S型）は莢膜多糖体により白血球に貪食され難く、時に重症化し電撃的な経過をたどる。最近是多剤耐性菌が急増し治療が難渋化しており、ワクチン接種が最も効果的な予防法である。

現在わが国の肺炎球菌ワクチンには、2歳以上を対象とし、主に高齢者の重症肺炎予防のための23価肺炎球菌多糖体ワクチン（PS23ニューモバックス）と、本年2月から始まった乳幼児を対象とした7価肺炎球菌結合型ワクチン（PCV7プレベナー）がある。

PS23は23種の莢膜多糖体よりなり、B細胞を直接活性化しT細胞非依存性反応により莢膜多糖体抗体を誘導する。一方PCV7は、7種の莢膜多糖体をキャリア蛋白の無毒性変異ジフテリア毒素に結合させT細胞依存型に変換し、B細胞が未熟な2歳未満の乳幼児にも防御抗体を誘導する。PCV7は小児のIPDの70～90%に効果があり、耐性菌の80%をカバーできる。WHOは、2007年にPCV7を世界各国で定期接種にするように推奨した。米国ではPCV7導入後はIPDの発生数が98%減少した。現在世界99カ国で承認、97カ国で使用、41カ国において国の定期接種になっている。しかし最近、PCV7に含まれない多剤耐性肺炎球菌が世界中で増加している。そこでPCV7に残存性IPDを生じる6種の血清型を加えた13価肺炎球菌ワクチン（PCV13）が開発され、すでに欧州と米国で承認された。わが国ではPCV7が始まったばかりであるが、世界の目はすでにPCV13に向けられている。

（文責 くろさわ子ども&内科クリニック 黒澤サト子）